

与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン(案)

1 背景と目的

- 与野本町駅周辺地区(約280ヘクタール)は、与野本町駅を中心として中央区役所や与野公園、彩の国さいたま芸術劇場をはじめ、多くの公共施設が立地する生活利便性の高い住宅地となっています。しかし、近年では少子高齢化や人口減少が進みつつあり、また中央区役所などの公共施設の老朽化も懸念されています。
- そこで、これからは地域資源や住環境をうまく生かしつつ、公共施設の再編などを進め、持続可能な住宅地を目指したまちづくりを展開していく必要があります。

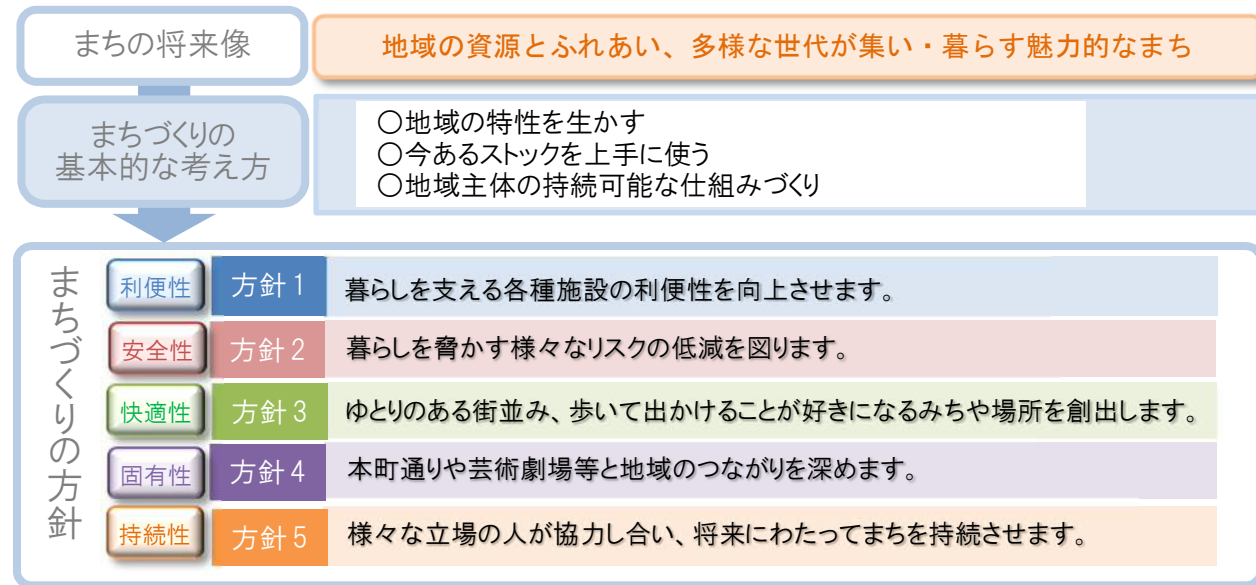
策定の目的

地域と行政が与野本町駅周辺地区のまちの将来像とまちづくりの方針を共有し、住宅地の持続可能なまちづくりを協働で推進するために策定するものです。

計画期間はおおむね20年間とします。

2 まちの将来像とまちづくりの方針

- 当地区が目指す「まちの将来像」及びまちづくりを進める上での3つの「まちづくりの基本的な考え方」を示しました。また、まちの将来像を実現していく観点から5つの「まちづくりの方針」を設定しました。



3 拠点・ネットワーク・都市空間ゾーニングの配置図



拠点、交通ネットワーク、都市空間ゾーニングを即地的に配置しました。
 ・拠点: 主要な活動が展開・結節する中心点
 ・交通ネットワーク: 人々の移動を誘導する導線
 ・都市空間ゾーニング: 施設の機能や建物の密度を誘導する土地利用区分

- ◎ 拠点(拠点となる公共施設等)
 - 中央区役所周辺
 - 彩の国さいたま芸術劇場
 - 与野公園・与野中央公園
 - 与野本町駅・北与野駅
- ◎ 交通ネットワーク(道路網)
 - 広域幹線道路
 - 地区内連絡道路
 - 主な生活道路
- ◎ 交通ネットワーク(散策路ネットワーク)
 - みどりの散策路
 - 水辺の散策路
 - 歴史の散策路
 - 芸術の散策路
- ◎ 都市空間ゾーニング(土地利用区分)
 - 生活商業地
 - 沿道住商複合地
 - (中層) 都市型住宅地
 - (低層) 住宅地
 - 複合住宅地
 - 沿道市街地
 - 工業・流通業務地
 - 市街化抑制や適正な土地利用を誘導するゾーン

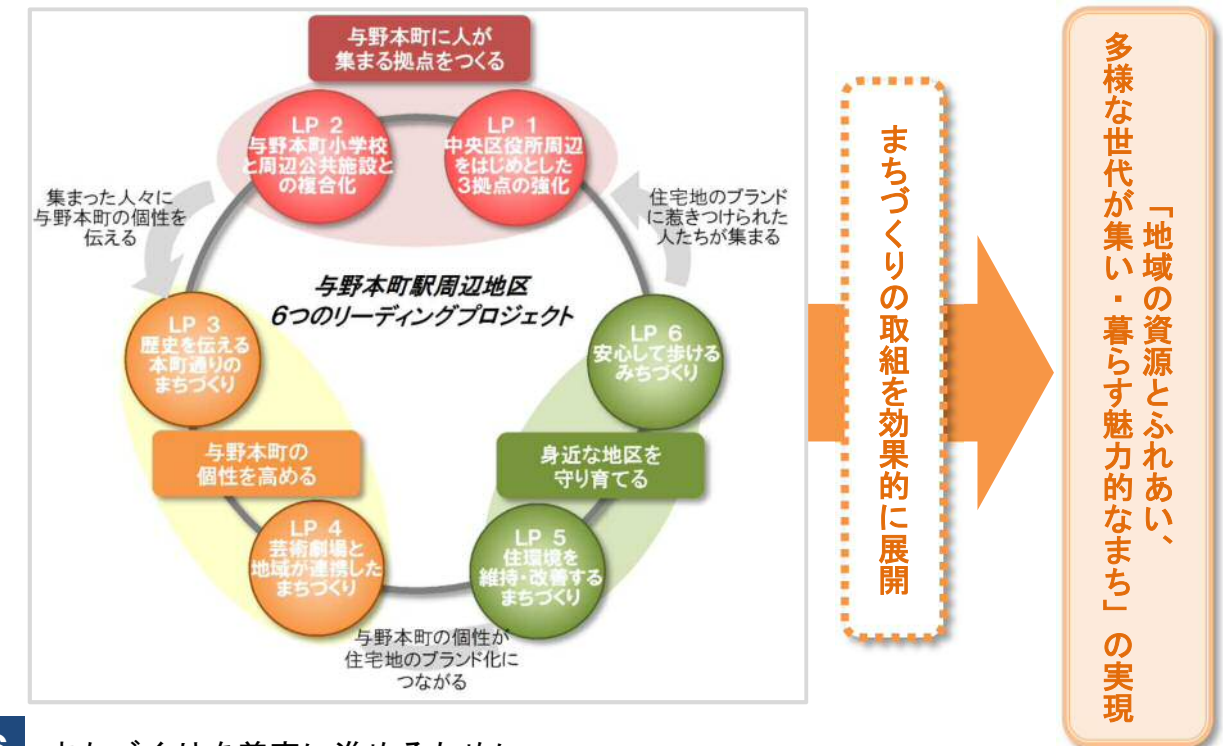
4 まちづくりの取組

- まちづくりの方針及び拠点・ネットワーク・都市空間ゾーニングの配置図を踏まえ、まちづくりの取組を進めます。

方針1	取組 1-1 与野本町駅周辺を使いやすく 取組 1-2 公共公益サービスを利用しやすくする	取組 1-3 身近な場所で買い物等ができるようにする
方針2	取組 2-1 水害に強いまちをつくる 取組 2-2 延焼火災に強いまちをつくる	取組 2-3 犯罪の起こりにくいまちをつくる 取組 2-4 歩行者・自転車が安全に通行できるようにする
方針3	取組 3-1 戸建住宅と集合住宅が調和したゆとりある街並みをつくる 取組 3-2 歩くことや自転車で走ることが好きになるみちをつくる 取組 3-3 身近な水辺やみどりを魅力的にする	
方針4	取組 4-1 まちの歴史を伝える建築物やお祭りなどを守り、育てる 取組 4-2 芸術劇場と地域のつながりを深める	取組 4-3 パラのまちとしてイメージアップさせる
方針5	取組 5-1 住民と民間事業者が行政と協力して公共サービスを担う 取組 5-2 人と人とのつながりをはぐむ場をつくる 取組 5-3 公共施設の更新などをきっかけにまちづくりを進める	

5 リーディングプロジェクト

- まちの将来像の効率的な実現を目的として、まちづくりの取組をパッケージ化した6つのリーディングプロジェクトを位置付けます。
- リーディングプロジェクトを一体的に推進することで、地区内に人が集まる拠点をつくとともに、まちの個性を高めて、住宅地としてのブランド化につなげます。ブランド化が、地域住民のまちへの意識を高め、住民自らが身近な地区を守り育てる活動へと導いていきます。
- その結果、まちの魅力が向上することにより、多様な人々が集まるという好循環なサイクルが期待できます。



6 まちづくりを着実に進めるために

- まちの将来像を実現するためには、地域の住民や事業者、行政など多様な主体が協働しながら地域のまちづくりを進めていくことが望まれるため、(仮称)まちづくり協議会の立ち上げに向けて検討します。
- さらに、地域の良好な環境や地域の価値を維持・向上させるために、行政はこれらの組織をエリアマネジメントに取り組む組織に発展できるよう支援します。